

2015年 A E Dを使用した心肺蘇生法普及500人講習会 実施報告書

日 時	2015年9月27日(日) 13時～15時30分				
会 場	神戸松蔭女子学院大学大学会館 (兵庫県神戸市灘区琵琶町3-2)				
受講者数	53名 (申し込み数74名)		スタッフ数23名		
主 催	健康スポーツ関連施設連絡協議会				
後 援	兵庫県 (公財)健康・体づくり事業財団 中央労働災害防止協会 (公財)日本心臓財団 (公財)兵庫県健康財団 神戸新聞社 ラジオ関西 神戸松蔭女子学院大学				
協 力	赤穂化成(株) (株)ドテヤマビジネス 日本光電工業(株) フィジオコントロールジャパン(株) ピップ(株) フクダ電子(株) 宮野医療器(株) デジタルグラフィック(株) (順不同)				
内 容	<p>基調講演「あなたは愛する人を救えますか」 講師:健康スポーツ関連施設連絡協議会会長・河村循環器病クリニック院長 河村 剛史(医学博士)</p> <p>実技講習「AEDを使用した心肺蘇生法」 指導:兵庫県医師会認定AEDインストラクター</p> <p>お楽しみ抽選会 <景品提供:赤穂化成(株)、(株)ドテヤマビジネス、ピップ(株)></p> <p>AED紹介コーナー <宮野医療器(株)、フクダ電子兵庫販売(株)、日本光電関西(株)、フィジオコントロールジャパン(株)></p> <p>海洋深層水コーナー <赤穂化成(株)></p> <p>テーピングコーナー <ピップ(株)></p>				
<p>■司会進行: 健康スポーツ関連施設連絡協議会事務局長 平石 純一</p> <p>■進行支援: (株)ドテヤマビジネス</p>			<p>スタッフ内訳 指導スタッフ(講師含む)15名 運営スタッフ(企業含む)8名 合計 23名</p>		
■指導者氏名及び所属(担当した班別に記載)					
班	氏 名	所 属	班	氏 名	所 属
1	斎藤 一雄	兵庫県心肺蘇生法を広める会	8	飯田 雅也	高砂フィットネスクラブ
2	倉橋 剛雄	兵庫県心肺蘇生法を広める会	9	甫木 寿彦	(株)オージスポーツ
3	岩崎 修治	(株)オージスポーツ	10	石田 ひとみ	健スポ個人会員(三木市)
4	白川 智章	フクダ電子兵庫販売(株)	11	一井 喜範	播磨町総合体育館
5	岩田 彩子	フクダ電子兵庫販売(株)	12	大西 利恵	県立星陵高等学校
6	岡田 晃	フィジオコントロールジャパン(株)	13	清水 巧一	健スポ事務局
7	飯寄 忠	貴崎フィットネスクラブ	14	横部 弘	ピップ(株)

この講習会は、1998(平成10)年、兵庫県立健康センター(当時)が主催した『心肺蘇生法普及500人講習会』がその始まりです。兵庫県立健康センターは2003(平成15)年度をもって廃止となりましたが、それ以降は、健康スポーツ関連施設連絡協議会が引き継いで開催しています。2004(平成16)年7月、医師法改正によりAEDの非医療従事者使用(いわゆる一般解禁)が認められてからは『AEDを使用した心肺蘇生法普及500人講習会』と改め、引き続き開催してまいりました。2006(平成18)年の「のじぎく兵庫国体」開催年には、多数の国体ボランティアも一緒に参加した『1000人講習会』を開催しました。

1998年の初開催時、兵庫県立健康センターの体育館を会場としましたが、会場が満員になる500人を目標にしようと「500人講習会」と名付けることとし、以後もこの名称を使い続けています。

受講者の内訳

1. 性別	男=49%	女=51%		
2. 年代	10歳未満=0	10歳代=2%	20歳代=9%	30歳代=8%
	40歳代=15%	50歳代=23%	60歳代=17%	
	70歳以上=23%	※最年長87歳、最年少12歳		
3. 地域	神戸市灘区=51%	神戸市東灘区=26%		
	神戸市垂水区=6%	尼崎市=4%		
	その他(神戸市中央区、同北区、同須磨区、姫路市、加古川市、相生市、奈良県)			

アンケート調査結果

回答数=42

1. 受講のきっかけ

- ・新聞折込広告 38%
- ・知人友人に誘われて 12%
- ・ダイレクトメール 31%
- ・その他 5%
- ・チラシを見て 12% (会社からの案内、当会のホームページを見て など)

2. 自宅、職場等ご自分の周りで、どこにAEDが設置されているか知っていますか。

知っている 34 (81%) 知らない 8 (19%)

3. 実技講習の評価

・よくわかった 37 (88%) ・ある程度わかった 2 ・無回答 3

4. 講習会全体の評価

・大変よい 30 (71%) ・よい 6 ・ふつう 1 ・無回答 5

5. また参加しますか

・ぜひ参加したい 30(71%) ・その時に考える 11 ・無回答 1

6. 講習会を終えて、もし自分が救命現場に遭遇したら、救命処置(または大声で助けを呼ぶ)ことができますか。

・できる(する自信がある) 37 (88%) ・あまり自信がない 3 ・無回答 2

7. 参加者の声

- ・昨年に続き参加させていただきました。今年は息子(小学6年生)も一緒に受講し、体験させて頂けたことに感謝申し上げます。いざと言う時必要な知識であり、このような講習会は貴重な機会です。今後も継続して体験したいです。(52歳男)
- ・この講習を通じて命を救う大切さを改めて感じた。(息子12歳)
- ・AEDを実際に使われた人の話は参考になりました。(50歳男)
- ・救命活動の大切さが分かりました。会社でも実施して行きたい。(51歳男)
- ・母も90歳で介護していますが参考にします。ありがとうございました。
- ・私は北区老連のスポーツ部に所属しています。20名ほどの会員ですが当方の部長に是非講習会の案内をして頂きたいです。次回される時は私の方からでも通知しますので宜しくお願いします。(73歳男)
- ・以前市民救命士などの他講習を受講していますが、実際に現場での救命処置を行ったことがなく、自分の技術向上と再確認の意味で受講しました。(46歳男)
- ・とても面白かった。一回は体験しておかないと現場に遭遇した時行動できないと思っていたので、こういう講習を探していたので嬉しかった。(？歳女)
- ・医師が、自身否定的な方々がおられる。もっと広めてほしい。(53歳男)
- ・今日は貴重な経験をありがとうございました。(22歳女)

- ・大変勉強になりました。(48歳女)
- ・声掛けくらいはできるかと思っておりますが、自身では勇気が出ないかと思います。(73歳女)
- ・ご親切にご指導いただき参考になりました。(87歳女)

主催者の感想

所謂AEDの一般解禁から11年が過ぎました。その間、国内でのAEDの普及は凄まじく、日本は一躍AED大国となりました。しかしながら、AEDの使用率は3%程度、つまり使用されるべき場面で使用されていないという現状です。それはいざという時勇気がない、自信がないということなのでしょう。だから講習を何度でも受けることが大事だと思っています。

一方で、AEDの普及に比例して「音声ガイドに従ってやれば誰でもできる」という情報が定着し、講習など受けなくても大丈夫、という意識が広まっていることも間違いないでしょう。いまや心肺蘇生法の講習は冬の時代です。

しかし、必要かつ大切なことに変わりはありません。これからも少人数の参加であっても、継続して開催して行ければと思っています。

健康スポーツ関連施設連絡協議会事務局 平石純一

■講習会風景



↑ 講演する河村先生

↑ 以前マラソン完走直後に心停止となり、AEDで蘇生した下村さんの体験談。



↓ 実技講習

